

## 手術室一足制実施後続発した脊椎手術後早期深部感染\*

三浦 恭志 新城 龍一  
寺部 健哉 岸田 俊一  
豊橋市民病院脊椎外科

**Key words:** 一足制 (Operating room environment-foot wear), 術後感染 (Surgical site infection), 感染予防 (Prevention of infection)

### はじめに

当院で、2005年4月1日より手術室の一足制を実施した後、短期間に脊椎手術後の早期深部感染が2例、発症した。それ以前の7年間では、1例のみであった。これを機会に、一足制の実施方法等に問題がないか調査検討した。

### 対象とそれらの概要

一足制実施後に、術後感染を生じた症例は2例である。年齢と性別は、それぞれ67歳の男性、77歳の女性であり、病名と手術術式は、それぞれ第3腰椎すべり症でのPLIF、腰部脊柱管狭窄症での開窓術であった。

術後感染発症日は、前者では術後21日、後者では術後9日で、起炎菌は2例ともMSSAであった。前者では保存的治療を行い、後者では再手術を施行した。

入院期間については、いずれの症例も、この種の疾患の通常入院期間を超過しており、超過した入院期間は、それぞれ43日と3か月以上であった(表)。

### 考 察

「床は、本来不潔領域(最小リスク)であることを認識し、床の消毒をするよりも、床面近くのものにふれない様にすることや、床面の埃が舞い上がらないような環境整備が必要である。ゆえに、不潔領域の物に触れるリスクを回避する上から、靴の履き替えを行わない方が合理的である」と言われて一足制の普及が推奨されている。

制度上は、院内MRSA感染等の防止のために

表. 術後感染症例

症 例	1	2
年 齢	67	77
性 別	男	女
病 名	L3 じり症	LCS
術 式	PLIF	開窓術
感染発症日	術後21日	術後9日
起 炎 菌	MSSA	MSSA
治 療	保存	手術
超過入院治療	43日	3か月以上

発せられた医政発0201004号(厚生労働省医政局長通知,平成17年2月1日)の中で言及された、小林らの「医療施設における院内感染(病院感染)の防止について」の中に、「…清潔と不潔の導線の交差を厳しく設定することや、履物の交換および術後の広範囲の床消毒などを行うことは、感染対策上において科学的根拠が認められない。…手術室への入室に際して履物交換は不要である…」と記載されていることが根拠になっている。また、病院運営を左右する病院機能評価の中で、「床の清潔・不潔の導線が交差している状況は厳しく評価しない」とされ、一足制普及に一役を買っている。

これらの論説は、アメリカのCDC guideline 1985および1999, OSHA regulation 1991に基づいている。そのエビデンスはHambraeusら(1979)<sup>1)</sup>の研究で、普通の靴、きれいな靴、靴カバーの3群で、床の細菌培養に有意な差が見られなかったとの報告、およびHumphreysら(1991)<sup>2)</sup>が、

\* Surgical site infection and operating room foot wear.

本論文の要旨は、第64回東海脊椎外科研究会学術集会で発表した。

[20070400-02]